

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念をもとに、地域密着型サービスの事業所としての独自の施設目標を理念に掲げている。	地域の方にもっと良く知って頂く様努力する。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設独自の理念をもとに、各人の目標を決め、達成の度合いは上長が判断している。	職員間で共有し徹底する。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホールの入り口に明示し、目に留まる様にしている。	家族会での声を大事にして行きたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設周辺で農作業をして居られる方々と、挨拶や世間話をしている。時々、野菜を頂くこともある。	施設内での催し物に、地域の方にも参加して頂き、交流を図る。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現状では、地域への出席は出来ていない。	地区の公民館等で認知症に関する話し合い等に参加させて頂き地元の方々と交流して行きたい。

グループホームさとび(東雲ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>6 事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>現状では、地域との取り組みは出来ていない。</p>		<p>災害時等に施設内に一時的に受け入れする取り組みをして行きたい。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7 評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価には全職員が参加し取り組んでいる。</p>		<p>職員に結果報告を行い、より良い支援を行って行きたい。</p>
<p>8 運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域の区長を始めとする住民の方、民生児童委員の方、包括支援センターの方など、多方面の方々に参加して頂き、施設の取り組みや問題について話し合っている。</p>		
<p>9 市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>相談員の定期的な訪問を受け、情報の提供をしている。</p>		
<p>10 権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>青年後見人制度を理解するよう、話し合いを持っている。</p>		
<p>11 虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止関連法について常に意識を持ち、接遇と関連しての勉強会を行っている。ご利用者様に対して全ての係わりに接遇の大切さを活かして行く。</p>		<p>勉強会の機会を増やし、言葉使いや態度を、今一度振り返ってみる。</p>

グループホームさとび(東雲ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>必ず書類を通して十分な説明を行い、読み合わせなどをしてご理解を頂いている。サインを頂く。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>派遣相談員を招き、ご利用様が意見を言える機会を作っている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>書面にての近況報告及び常日頃から面会時などにも報告。特変などは発生時、即、電話にて連絡、報告する。(さとび便り発刊)</p>	<p>今後ご利用者様の変化は、迅速にご家族に連絡、報告を行う様努めていく。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>法人としてのアンケート。</p>	<p>面会時などご家族から見た様子、又はご利用者様からの訴えなどご意見を伺ったり、家族会を通じ、交流の中でゆっくりと生の声を頂き現場作りに反映させていく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>カンファレンス、毎日の申し送り、ミーティング時に意見交換をし改善に反映させている。</p>	

グループホームさとび(東雲ユニット)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>早出1名・日勤1名(状況に応じ2名)・遅出1名の3~4名体制にしている。(日中)</p>		<p>サービスに支障の無い様、継続して行く。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>移動退職も、やむをえない場合もあり、必要最小限にとどめている。</p>		<p>長くいる事は、馴れ合いになるとも言われているが、適材、適所という言葉もある。良い環境、良い関係で御利用者様と時間を過ごせるのなら、それを大切に守って行きたい。</p>
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修に参加。出席者は資料提出並びに全職員への伝達。挨拶の徹底や「職場の教養」の朗読など、継続的な活かし方の実施。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会への参加。講習会への参加を行っている。</p>		<p>交流できる機会には積極的な参加をし、活動の中から質の高いサービスを学んでいく。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>責任者及び職員同士でも話せる職場環境を作っていく。</p>		<p>職場を離れたら、リラックスできる時間を過ごせるように。</p>

グループホームさとび(東雲ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	意見を聴き、実施可能な事は実施し、その上で継続、変更の話し合いを持ち、意欲向上に努めている。ねぎらい、感謝の言葉はある。		職員との話し合いの時間を多く持ち、出来るだけ考慮する様考えていく。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	生活暦、環境、性格、欲していること等を、ご家族、ご本人から情報を頂き個別性を重視しそれに添えるよう努力している。		今後も継続すると共に、初期段階での信頼関係を築けるよう努力していく。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	生活暦、環境、性格、欲していること等を、ご家族、ご本人から情報を頂き個別性を重視しそれに添えるよう努力している。		今後も継続すると共に、初期段階での信頼関係を築けるよう努力していく。
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向を重視し、ケアプランを作成し、統一した介護を行っている。他サービスの紹介、利用も行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に何回か見学して頂き、納得された上でサービスを開始している。		利用開始にあたっては、ご本人、ご家族にあった開始を継続していく。

グループホームさとび(東雲ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ご本人の過ごされてきた環境等を理解し、昔のお話を伺ったり、共通の話題を提供するなど共感し合い、支えあう関係を築いている。</p>	
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族様だから出来ること、施設だから出来ることを共有し、共にご本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族様と共感し、思いを傾聴するよう努めていく。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>変化のあった時は即連絡し、状況は随時お知らせしている。又、ご家族様の方で気づかれた変化等があればお話頂いている。</p>	<p>「さとび便り」を発行し、最近の状況、写真等を掲載してお知らせしている。今後も継続していく。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>お友達や、馴染みの方々が訪ねて来て下さっている。その際は、配慮に心掛けている。</p>	
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>中間的な立場に立ち、話の橋渡し役をしている。状況を把握し、孤立されている方の無い様努めている。</p>	

グループホームさとび(東雲ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されている方へ、お見舞い訪問を行い近況等お話を伺っている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意思をしっかり受け止めるようカンファレンスを行っている。又、日々の変化を見逃さないよう、職員間でも気付きを共有している。		ご利用者様の立場に立ち、ご本人の本意で生活して頂けるような話し合いを持っている。
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族様から直接お伺いし、情報を得ている。その情報を基にカンファレンスにて共有している。		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝礼時や昼休み時等、必要に応じミニカンファを開き現状の把握に努めている。定期的に関開くカンファレンスの基にもなっている。		ミニカンファの時間を情報把握に有効に使う。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族様の面会時やご本人から意向、意見等をお聞きしている。又、医師よりの意見を得たりもする。それを基にカンファレンスで意見を出し合い、ご本人に添うような計画を立てている。		

グループホームさとび(東雲ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ミニカンファの情報において、見直しを行っている。又、医師や看護師の指示を仰ぐこともあり、状況に応じて新たな計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カードックス、申し送りノート等に個別で記録をし、職員全員が内容を共有している。内容についてミニカンファで話し合う事もある。		記録の見忘れ等に注意し、情報を常に共有する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出、外泊、面会等その時々々の要望に応じ柔軟な対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域推進委員、市の相談員の訪問を受け、情報交換や協力を行っている。又、防災訓練に於いては、年一回近隣の施設との合同訓練を行い強力体制を築いている。		地域資源の活用をもっと取り入れたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	外出困難なご利用者様については、訪問理容サービスを受けている。		

グループホームさとび(東雲ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂き包括支援センターと協働している。		
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一回の往診があり健康状態をチェックして頂いている。状況に応じた医療が受けられる様、連絡網もある。		状況の応じた連絡体制がとれる様になっている。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	状況に応じた対応を行っている。週一回は専門医師に相談できる。		医師や看護師と常に相談が出来る。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の訪問があり(週3回)ご利用者の健康管理を行なっている。アドバイスを受け協働している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	法人グループ内の医療関係者も含めて入院時の医療機関とは情報交換を行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご本人、ご家族、医師との話し合いの中で、希望を聞きながら相談を重ね方針を決めるよう努めている。職員も、利用者様がここでの生活を一日でも長く過ごして頂ける様対応している。		

グループホームさとび(東雲ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期に向けての話し合いを行っている。特に「出来ること、出来ないこと」の見極めが重要。		今後の変化に備えての検討を行っている。
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分な話し合いや、必要な情報の提供を行っている。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇に心がけ、プライバシーに配慮した対応を行っている。		接遇委員と協力し対応を徹底する。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	「出来ること」を係わりの中から表出し、それに添う支援を行っている。又、希望があれば対応もしている。		

グループホームさとび(東雲ユニット)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースを把握しており、それに添うよう支援している。しかし、都合を優先する場合も時にはあり、そのような時はゆっくりとお話をするようにしている。</p>		<p>一人ひとりのペースを大切に、支援していく。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>お持ちの洋服のコーディネートをしたり、希望される方には、お化粧品、マニキュア等を行っている。お出かけはご家族様をお願いしている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>嗜好や得意料理などを聞き、食事に興味を持って頂くよう心がけている。出来る方には、簡単な後方付けを手伝って頂いている。</p>		<p>出来る範囲でのお手伝いをお願いする。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>好みの物の把握を行い、出来るだけ添える様な提供を行っている。(飲み物、おやつ)</p>		<p>季節を感じて頂ける様心がける。</p>
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>個々の排泄パターンによりトイレ誘導を行っている。又、訴えや行動の把握もしている。</p>		<p>パターン表のチェックを行う。職員間での声掛けが必要。</p>

グループホームさとび(東雲ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週4日間を入浴日としているので、この間に2回は入浴して頂く様支援している。(希望日を聞く)		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	各人ご自由な場所にて休まれている。		意思表示が上手く出来ない方の対応に注意する。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご自由にして頂けるよう、見守っており、時に助言している。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設側で管理している。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調、天候に合わせた外出をし季節の変化を感じていただいている。近隣の施設での催し物に参加している。		個々の体調に合わせた散歩を行う。

グループホームさとび(東雲ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族様の協力を得て、ぶどう狩りを楽しんだ。家族会の中に外出を組み入れて行く。普段外出出来ない方への配慮を忘れない。		ご家族様の協力、理解を得る。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様了解の下、ご利用者様の要望に対応している。		ご家族様の承諾のうえ、対応する。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご自由に訪問して頂いている。訪問の際は、お茶等用意させて頂きゆっくりと過ごして頂ける様配慮している。		いつでも気軽に訪問できる雰囲気づくりに心がける。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。		見守りの強化。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外部との出入り口(玄関)は世相の安全上施錠している。利用者様の安全を考慮し一部施錠している箇所もある。		

グループホームさとび(東雲ユニット)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>所在確認表にて一時間ごと所在を確認している。夜間帯は所在を確認しやすい位置にて待機している。</p>		<p>今後も継続して行く。職員間の声掛けを徹底している。</p>
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>個別に対応している。ご利用者様の保管状況を職員全員が把握している。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>歩行具の見直し等個々の状態に応じた対応をしている。ひやりハット、インシデント・アクシデントレポートを共有し対策を講じている。又、誤薬の無い様、配薬箱に氏名、写真等を貼り配薬準備している。</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>紙面での訓練は出来ているが、状況に応じた対応訓練は出来ていない。今後の課題。</p>		<p>全職員が対応出来るよう訓練を行う。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年一回近隣の施設と合同での訓練を行っている。月一回ミニ避難訓練を施設内にて行っている。</p>		<p>地域の方の応援が得られるように、協力体制を作っていく。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>訪問診療の医師とご家族様にて十分な話し合いを行っている。必要に応じて理解を求めている。</p>		<p>ご家族様の理解を深めていきたい。</p>

グループホームさとび(東雲ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>速やかに医師、看護師に連絡をとり、対応している。又、様子の変化の「気づき」に努めている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>用法、用量については薬の変更がある都度、確認し理解している。又、日常の変化を医師に伝え服薬の調整を行っている。</p>	<p>医師、看護師の指導の下、服薬調整を行って行く。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>便通を促す食事の提供や、腹部のマッサージ等を行なっている。必要に応じ便秘薬の服用もある。(医師の指示の下)</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>各人の状態により介助方法を変えて対応している。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>必要性をお話し、十分な量が摂取できるよう促している。特に意思表示の困難な方のサポートに注意している。</p>	<p>栄養士の指導も得たい。</p>

グループホームさとび(東雲ユニット)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいを徹底して行っている。マニュアルに添っての勉強会等も行っている。		法人の指導の下実施している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	法人からのマニュアルに添って実施し、衛生管理に努めている。		法人の指導の下実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすく、威圧感の無いよう工夫している。四季折々の草花等を置いている。		家庭的な雰囲気を出したい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには観葉植物等を置き、季節に合ったのれんをかけるなど、落ち着いて過ごして頂ける工夫をしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、テーブル、ソファ等あり、一人でも、気の合う方々でも利用できるようになっている。		

グループホームさとび(東雲ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人の好みを活かした居室にしている。それぞれの特徴が活かされた居室となっている。</p>		<p>その人らしさも必要であるが、安全面についての配慮も必要。</p>
<p>84</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>自然に近い空調に心がけるとともに、利用者様の状況に応じ配慮している。</p>		<p>外気温との差に注意する。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりに合った器具を使用している。</p>		<p>リハビリ科の指導も仰ぐ。</p>
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>無理強いをせず、自然体で接している。要望があれば、出来るところまで行うように促している。</p>		<p>状況に応じた促しが必要。</p>
<p>87</p> <p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>季節により、涼んだり、日光浴をしたりと、楽しんでいる。中庭では、お茶タイムも楽しんでいる。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所に つけること)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

グループホームさとび(東雲ユニット)

項目		取り組みの成果 (該当する箇所に をつけること)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症の方とのなじみの関係作りに力を入れています。ここは利用者様にとって生活の場です。その方の「出来る事、出来ない事」を見極め、小さなできる事も大切にし、職員の関わりを多くして共に行います。接遇を大事にし心をこめた一言の言葉かけにより「心和やかに、穏やかに安心して居られる場所、この人は私の事を大切にしてくれる人」と感じて頂ける安心と心を大切にする一日一日を支援しています。室内外に緑や花を多く配置し、暖簾などで季節感を出すことによって潤いと、癒しと和みと優しさあふれる心地良い環境の中で楽しみや喜びを得られるメニューを工夫し、笑顔の生活をして頂ける事が重要と考えています。家族会、さとび便り等を通じてご家族と生活情報を共有し家族とのきずなを深めています。定期的な往診診療と訪問看護を活用する事によりこれまで以上の安心を提供出来る様になりました。